



ひろしまええとこ つながり活動集



社会福祉法人
広島市社会福祉協議会

はじめに

コロナ禍において、様々な地域活動が休止や延期等の活動自粛を余儀なくされている状況にあります。この間、閉じこもりによる高齢者の虚弱化の進行、社会的孤立の深刻さが増していますが、その一方で、こうした状況は「誰かとつながっていること」「誰かを支えたり支えられたりすること」の大切さを再認識するきっかけにもなりました。そして何よりも、つながりを途切れさせないための取組が広がっています。

この活動集は、地域団体や企業等の皆様にご協力いただき、コロナ禍における**つながりを途切れさせないための新たな取組や従来の活動を工夫した取組**等について、お寄せいただいた内容等をもとに作成しました。

これらの取組事例を通して、さらなる創意工夫のある活動の展開につながることを祈念するとともに、各団体・組織間でも共有していただくなど、活動を続ける上での参考としていただけたら幸いです。

目次

P2 紹介事例マップ

P4 コロナ禍のつながりについて
(参考) コロナ禍のサロン活動等の状況

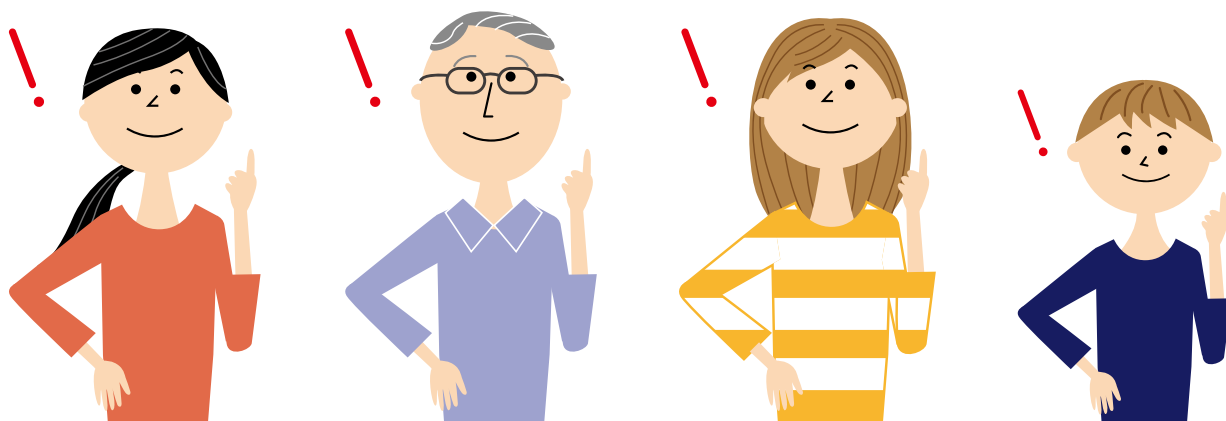
P6 各区(中区～佐伯区) ええとこ活動ページ

P22 市域協議体構成団体 ええとこ活動ページ

P34 生活支援コーディネーターの紹介

P35 ひろしまええとこ通信の紹介
市域協議体とは？

お！それ、ええね！ うちもやってみよう！



ひらめき！

モチベーションアップ！

刺激！



紹介事例マップ

つながりを維持・育んだ地域活動

体操・運動の 通いの場や 居場所



- 中島地区子育てサロン(中区) P6
こんな時だからこそ過ごそう仲間とともに
- 牛田学区・早稲田学区 早稲田神社まで歩こう!(東区) P9
神社まで歩いていって!気軽にフレイル予防をしよう!
- 落合地区社会福祉協議会(安佐北区) P17
GO TO! いきいきキャンペーン!!
- 下大山ふれあいクラブ(安芸区) P18
みんなが主役の通いの場
- 中河原町内会域(安芸区) P18
密を避けて庭先バザー
- オイ・ジョイなぎさ(佐伯区) P20
自粛期間中も楽しみながら取り組もう!
- 五月が丘一丁目百歳体操の会(佐伯区) P20
感染予防策を学んで活動再開!

見守り支援



- 青崎地区社会福祉協議会(南区) P11
コロナ禍だからこそ、あたたかな連携を
- 井口五丁目水鳥会(西区) P13
次に会える時のために…体操スケジュール&頭の体操
- 井原地区社会福祉協議会(安佐北区) P16
はがきでつながる 思いがにつながる
- 安芸区域(安芸区) P19
コロナに負けない! ~みんなでつながり続ける方法~
- 広島市民生委員児童委員協議会(市域協議体) P22
できることをできる範囲で!つながりを保つ!
- 広島市地域女性団体連絡協議会(市域協議体) P22
コロナに負けるな!励ましあって、つながる地域!!

ちょっとした 困りごと支援



- 白島老人クラブ連合会・神崎学区社会福祉協議会(中区) P7
コロナ禍でもいつでも相談ができる場所を
- ボランティアバンク「はらみなみ」(安佐南区) P14
ボランティアで孤立を防ぐ
- 広島市シルバー人材センター(市域協議体) P24
「任せてね!!あなたと地域のお手伝い!」
- 協同労働ひろしま(市域協議体) P25
協同労働団体「アグリアシストとも」 コロナ禍の取組紹介
- 広島市小規模多機能事業所連絡会(市域協議体) P28
コロナワクチン接種を地域のなじみの場所で!地域と協働!! ~小規模多機能事業所「縁が和」(安佐北区亀山)の取組~

オンラインを活用したつながりづくり



- 熾ささえあい連絡会(中区) P6
オンライン研修会
- 戸坂城山学区 南わくわくサロン IT 教室(東区) P8
オンラインサロンから見守り・防災活動へ!
- ひゃくなん会(南区) P10
早送りされた老いを、それぞれがどう支えるか? ~コロナ禍における高齢者の現状~
- 山田地区社会福祉協議会(西区) P12
いつでも どこでも だれとでも ~つながろう in やまた~
- 山本学区社会福祉協議会(安佐南区) P15
自宅からみんなで百歳体操
- 八幡学区社会福祉協議会(佐伯区) P21
まずは役員からオンラインで!
- 広島県生活協同組合連合会(市域協議体) P26
苦手だけど、仲間と一緒にチャレンジ! ~オンライン環境を活用した学習・つながり・健康づくり~
- 広島市福祉施設連絡協議会(市域協議体) P29
地域と専門職が連携し、施設入所者とその家族をつなぐ!!
- ひろしま NPO センター(市域協議体) P32
コロナ禍の補助金等を幅広く情報共有!!

社会貢献や食等を通したつながりづくり

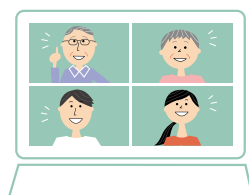


- 東浄学区 戸坂新町いきいき体操サロン・中山台サロン会・つくしんぼ作業所(東区) P8
野菜販売を通して地域住民と交流!
- 健康応援ステーション ライオンハート(南区) P10
脳も体も心も元気に美しく楽しく暮らそう!
- 大芝地区社会福祉協議会にんじんの会(西区) P12
食べて 笑って つながって 大芝にここに kitchen
- 伴学区社会福祉協議会(安佐南区) P14
ふくしの伴(とも)づくり ~「みらいちゃんショップ」の運営~
- 広島市老人クラブ連合会(市域協議体) P23
44年続く雑巾寄贈運動!! 他
- 広島市農業協同組合(市域協議体) P27
農産物品評会の野菜を地域団体へ寄贈 ~地域とつながり、思いがつながる!! ~
- マツダ株式会社(市域協議体) P30
企業と地域がつながるヒント ~Win-Winの関係で地域貢献~
- セブン・イレブン・ジャパン(市域協議体) P31
コロナ禍でも“もっと近くて便利へ” ~セブンあんしんお届け便(移動販売)の取組~
- 広島市社協ボランティア情報センター(市域協議体) P33
みなさんの想いをつなげて

コロナ禍のつながりについて

コロナ禍がもたらした「つながること」の 大切さの再確認

新型コロナウイルス感染拡大防止から、「密閉」「密集」「密接」、いわゆる「3密」を避ける動きが一気に広がりました。特にサロン活動等の人と人との集う場の開催には、大きな制限がかかり、活動の中止や延期を余儀なくされました。(次頁参照)



しかし、普段のつながりを遮断されることで、そのつながりのかけがえのなさに気づくきっかけにもなりました。活動自粛を余儀なくされる中でも、「開催できない＝何もできない」で立ち止まらず、つながりが大切と気づけたからこそ、つながりを途切れさせない方法や取組が模索され、生まれ、育まれています。とりわけ、地域活動においては、**これまでの活動や平時の中で関係性が構築されていることで、コロナ禍で直接会うことが難しい状況にあっても、互いに気にかけて、つながりを維持しようとする取組の広がりが見られました。**

活動の再開や活動の幅を広げる 様々な方法と新たなつながり

人と人とのつながりが大切であると実感できたからこそ、つながりを絶やさないために、感染防止対策を行いながら、活動内容を工夫することで活動を継続することができた活動や、活動できなくてもつながりを保つための工夫された取組がたくさんあります。



活動再開のために「安心してつながる」方策として、自分たちの活動の目的や意義、ルール等を改めて見直す(振り返る)ということも、多くの地域活動団体で見受けられました。

また、コロナ禍では、これまでの「集う」といった活動の重要性を再認識するだけでなく、新たなつながり方にチャレンジする機会にもなりました。特に「オンライン」の活用については、地域一体となったチャレンジの結果、今やつながる選択肢として欠かすことのできないツールになっている地域も少なくありません。

こうした新たなつながり方を模索していくことは、その分野に得意な方や企業等、今までの活動ではあまり関わる人がなかった人たちともつながるきっかけにもなります。また、そうした人たちの協力を得ることで、活動内容の拡充等へとつながっています。

(参考) コロナ禍のサロン活動等の状況

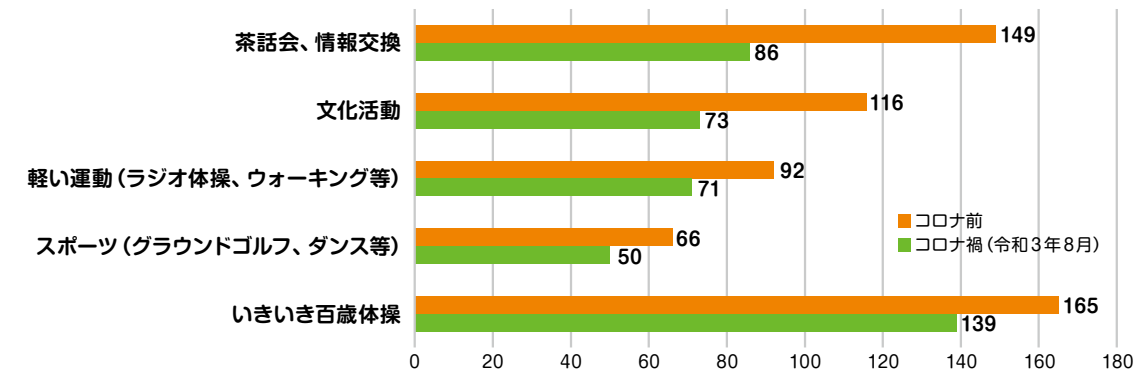
① 広島市からのサロン活動等に対する開催自粛要請について

※令和3年12月時点

自粛要請期間	
令和2年2月26日～令和2年5月17日	約12週間
令和2年12月12日～令和3年2月7日	約8週間
令和3年5月8日～令和3年7月11日	約9週間
令和3年8月3日～令和3年10月14日	約10週間
約1年8か月(約80週間)のうち、約39週間の自粛要請	

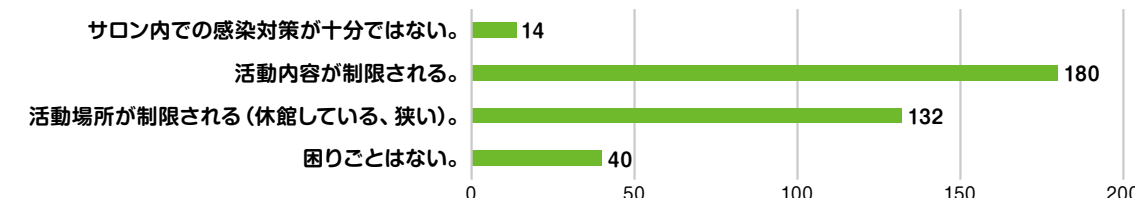
② サロン実施団体の活動内容の変化について

※広島市地域高齢者交流サロン実施団体アンケート(広島市健康福祉局高齢福祉部高齢福祉課 令和3年8月実施)より
(n=330)



③ サロン実施団体のコロナ禍での困りごとについて

※広島市地域高齢者交流サロン実施団体アンケート(広島市健康福祉局高齢福祉部高齢福祉課 令和3年8月実施)より
(n=330)



新型コロナウイルス感染拡大の影響により、活動自粛を余儀なくされる中、地域団体や企業等によるつながりを保つための工夫された取組等を次頁からご紹介します。



中区

コロナをチャンスに、今できることをやってみる！

オンライン研修会

幟ささえあい連絡会



●最後にみんなで手を振り、記念撮影をしました

幟町地域包括支援センター主催で毎年開催の「幟ささえあい連絡会」を、今年はコロナ禍の状況を鑑み、会場とオンラインでのハイブリット開催を試みました。三密を避けるため、白島集会所、トリニティカレッジ、廣瀬神社の3会場を設け、参加者は、それぞれ最寄りの会場に集まりました。各会場をオンラインでつなぎ、情報交換もしました。

参加者からは“離れた距離にいるのに近くに感じる”“オンラインって不思議”などの感想があり、オンラインを活用した取組を身近に感じるきっかけになりました。

こんな時だからこそ過ごそう仲間とともに

中島地区子育てサロン



●みんなの思いが“ほっこりの木”にたくさん溢れています。

コロナ禍において、中島地区子育てサロンを休止せざるを得ないことも多く、また、感染対策のため、密にならないよう対面での会話を控えるなどの制限をすることになりました。

そこで、子育て掲示板「ほっこりの木」を作り、それぞれの悩みやサロンの中での発見等をメモして、掲示板に貼る取組を始めました。掲示板を通して、お互いの思いを共有しています。

お互いの気持ちや思いを想像し、共感し、お互いを知り合う中で絆を深め、皆が寄り添えるサロンにしていきたいと思っています。

コロナ禍でもいつでも相談ができる場所を

白島老人クラブ連合会



●コロナ禍でも毎日相談窓口を開設しています。

白島地区老人クラブ連合会では、コロナ禍でもいつでも相談に来てもらえるよう、感染対策を講じたうえで、住民主体型生活支援訪問サービス「白島生活支援」の窓口を毎日開設しています。

神崎学区社会福祉協議会



●「地域みんなの“よりどころ”となるように…」これがふれあい神崎の思いです

神崎学区社会福祉協議会では、住民主体型生活支援訪問サービスを実施していた「ふれあい神崎」に、今年度からは対象者を限定しない地域の困りごと相談所の機能を新たに追加し、感染対策を講じながら、週3回の開設を継続しています。

中区では、これまで行ってきた活動をコロナ禍の中でも、できるように工夫して行った取り組みを紹介しました。

これからも無理をせず、今できることを続けていけたらと思っています。



なかちゃん
(中区のまちづくりキャラクター)

東区

今だからできた！ 新たなつながりの取組！！

オンラインサロンから見守り・防災活動へ！

南わくわくサロン IT 教室 (戸坂城山学区)

コロナ禍でも中止しないサロンを目指し、南わくわくサロン IT 教室では、サロン自粛期間中 LINE や Zoom を使用したオンラインサロンを開催しました。

LINE のビデオ通話は、電話感覚で通話できるので、災害や見守り時に便利であり、サロンの連絡網にも使用されています。

実際に LINE のビデオ通話を使用した防災訓練も行われました。今後、このような SNS やオンラインを活用した取組を見守り活動にも繋げ、輪を広げていければと思います。



●オンライン防災訓練中！

野菜販売を通して地域住民と交流！

戸坂新町いきいき体操サロン・中山台サロン会・つくしんぼ作業所 (東浄学区)



●野菜販売はいつも盛況です！

「いきいき百歳体操」を実施している東浄学区の「戸坂新町いきいき体操サロン」「中山台サロン会」では、体操終了後につくしんぼ作業所メンバーによる野菜などの販売を通し、メンバーと高齢者が交流する機会を定期的に設けています。

サロンとは別に町内会行事でも販売をしています。販売時にメンバーは名札を付けて販売をすることで（ご家族了承のもと）、名前を呼びあいながら交流しています。

神社まで歩いていだけ！ 気軽にフレイル※予防をしよう！

早稲田神社まで歩こう！ (牛田学区・早稲田学区)



●左側で活動受付、右側で作業所の販売を行っています！



●もちろんお詣りも。

●包括独自のポイントをゲット！(手前)
ゴミを沢山拾って来る人の姿も！(奥)

※フレイルとは、加齢とともに、心身の活力（例えば筋力や認知機能等）が低下し、生活機能障害、要介護状態、そして死亡などの危険性が高くなった状態のこと。平成 28 年版厚生労働白書より

毎週金曜、早稲田神社に歩いて来るだけでいきいきポイントをゲット！来る途中にゴミ拾いをするとさらにポイントアップ！

この取組は牛田体協・早稲田体協の共催で、地域住民のボランティアにより運営しています。境内では地域包括支援センターがフレイル予防や脳トレなどの情報発信や独自のポイントカードを作ってポイントが貯まれば景品をプレゼントしたり、色々な企画をしています。また、障害福祉事業所（まごころの家若草、きつつき共同作業所、SOAR きつつき、つくしんぼ作業所）が交代でパンやクッキー、雑貨の自主製品の販売をしています。

活動に参加することが参加者同士の見守りにもなります。ウォーキングという一つの取組が様々な地域活動につながるよう工夫しています！



●チラシを丁寧に折ってお渡し。こまやかです。

東区ではこうした取組等を紹介し、共有する場として多職種連携の「東区地域共生社会の実現に向けたネットワーク会議」を開催しています。また、ネットワーク会議の実務者協議（地域支えあい課・地域包括・区社協）を隔月開催し、地域の情報を随時共有しています。



南区

コロナ禍で得た プラス経験 つながりが あるから元気でいられる

早送りされた老いを、それぞれがどう支えるか？～コロナ禍における高齢者の現状～

ひゃくなん会



●春日先生(左)と濱部代表(右)

高齢化時代を生き抜くために、ケアマネージャーを中心とする福祉専門職と南区住民と一緒に、人生の様々な問題を考え、話し合う会「ひゃくなん会」を、毎月最終木曜日の午前にオンラインで開催しています。

令和3年10月には、臨床社会学者の春日キスヨ先生を講師に招き、「早送りされた老いをそれぞれがどう支えるか？」をテーマに会場とオンラインのハイブリット型講演会を開催しました。

毎回共感できるテーマ設定で、徐々に参加者が増えています。

脳も体も心も元気に美しく楽しく暮らそう！

健康応援ステーション ライオンハート



●BGMはサロンのテーマソングです

向洋新町にある明販広島東おかもとでは、地区社協の酒入会長、老人クラブ連合会、民生委員、大州地域包括支援センターの協力を得て、向洋新町を拠点とする認知症カフェを開催しています。代表の岡本さんは、アロマインストラクターの資格を生かし、毎月ぬくもりのあるおもてなしを企画されています。

今後は、移動式の「ライオンハート号」でコロナ禍で閉じこもりがちの高齢者のために、出向いて行ける認知症カフェとしての取組も進めていきます。

コロナ禍だからこそ、あたたかな連携を

青崎地区社会福祉協議会



●商品はたくさん準備しています！



●防災士さん



●目印の赤い旗です。



●定期的に研修会を行っています。

向洋本町町内会の主催行事である「なだの朝市」は、町民に実施したアンケートで「集まる場所がほしい」という要望が多かったことをきっかけに始まり、毎月第3土曜日の朝に開催されています。今年で11年目になります。

農協や、青崎地区社協の東会長の家庭菜園で育てた野菜、作業所で作ったパンや焼き菓子なども販売しています。整理券を配り入場制限をするなど、コロナの感染予防対策をしっかり行いながら、今後も継続していきます。

今夏、大雨が続き、青崎地区でも2度避難所が開設されました。大雨による災害の危険性がある場合には、気象情報や避難情報をチェックし、早めの避難準備が必要です。令和3年7月には、青崎地区居住の気象予報士と防災士の方にそれぞれ講演をしていただき、いざという時に役立つ知識や実践を教えていただきました。

今後も地域住民への防災知識の普及、啓発活動が続けていながら、災害に強いまちづくりを目指します。

人との接触が大きく制限される毎日。だからこそ人との触れ合いがもたらす意味の大きさに気づかされる日々でもあります。

自分ひとりだけで頑張るのではなく、みんなで地域を元気にしている団体をご紹介します。



南区のボランティアさんの手作りの大きなぬいぐるみが、福祉センター玄関でお出迎えしています。

西区 「これまで」と「これから」のつながりを大切に

食べて 笑って つながって 大芝にこここ kitchen

大芝地区社会福祉協議会にんじんの会



●お弁当販売の様子



●無料の食材配布の様子

大芝にこここ kitchen は、地域の方々が安心して食事ができる多世代地域食堂です。これまで、ツクイ広島大芝デイサービスにて開催していましたが、コロナ禍では大勢で集まり食事することが難しくなりました。それでも何かできないかと考え、これまでと形を変え食材配布やお弁当販売をしてきました。

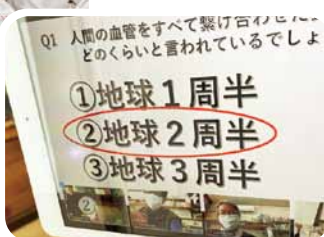
「状況が落ち着いた時に、多くの人にまた来てもらいたい」と考え、地域の方々とのつながりを絶やさないようにされている取組です。

いつでも どこでも だれとでも ～つながろう in やまた～

山田地区社会福祉協議会



●1人1台タブレットを使用しました！



●オンラインクイズ大会

「コロナ禍でも何かできないか」と古田地域包括支援センターに相談があり、タブレットを活用したオンライン講習会を開催することになりました。

タブレット使用方法の説明後、オンラインでの介護予防講座や消費者被害啓発を参加者が楽しめるようにクイズを交えて開催しました。参加者からは「まだ、一人ではできんけど、色々な人とつながって何かできるのではないかと想像ができた」といった意見がありました。今後もオンラインを使用した研修・講習会などを開催していく予定です。

次に会える時のために… 体操スケジュール & 頭の体操

井口五丁目水鳥会



●再開が待ち遠しい百歳体操

井口五丁目水鳥会では「2か月分の体操スケジュール & 頭の体操」を会員の皆さんへ配付しています。表には2か月分の「体操スケジュール」、裏には会長お手製の「頭の体操」が記載しており、活動自粛中も「サロンお休みお知らせチラシ」と共に、「また会える時までお元気でいてください。」という気持ちを込めて、会員のご自宅ポストに一つずつ投函されました。

会えなくてもつながりを絶やさない、そして会員の皆さんの健康を気遣われる活動です。



●会長お手製です。あたたかい気持ちになります。

コロナ禍において、「つながる」をキーワードに取り組まれた団体をご紹介します。

地域みなさんがそれぞれの形で「これまで」と「これから」の両方のつながりを大切にして活動をされています。



安佐南区 コロナ禍でも つながり続ける仕組みづくり

ふくしの伴(とも)づくり ～「みらいちゃんショップ」の運営～

伴学区社会福祉協議会



●みらいちゃんショップの様子

コロナ禍で希薄になった人との“つながり”を取り戻し、安心して暮らしていける「ふくしの伴(とも)づくり」を目指すために、世代属性を問わず交流できる場、「みらいちゃんショップ」が開設しました。

- 障害者事業所の自主製品の販売
- 地域の特産品の販売(準備中)
- ミニ Café
- 福祉のよろず相談コーナー

を設置しており、マスコットのみらいちゃんも待ってます♪

【場所】沼田合同庁舎(火山館)地域交流スペース

ボランティアで孤立を防ぐ

ボランティアバンク「はらみなみ」

ボランティアバンク「はらみなみ」では、生活支援のボランティアの依頼をした高齢者が、「コロナ禍で人との交流がなくなって寂しい」と話されたことをきっかけに、電話により週に一回「話し相手」として支援できるボランティアを調整し、自粛による高齢者の孤立を防ぎました。

ボランティアをしたFさんは「連絡が無いと心配になる、地域でみんなに楽しく過ごしてもらいたい。」と話されました。



●電話を行うボランティアのFさん

自宅からみんなで百歳体操

山本学区社会福祉協議会



●百歳体操オンライン配信中

山本学区社協では、緊急事態宣言が出た令和3年5月に、集会所で開催している「いきいき百歳体操」が中止になるため、自宅から参加できるように Zoom を活用しようと話があがりました。

学区社協、祇園・長束地域包括支援セン



ター、広島市、区社協で話し合い、体操参加者へ声をかけたところ、5人の参加がありました。

現在も Zoom 配信を継続しており、口コミで広がって、今では毎週 10 人以上が自宅から参加されています。

コロナ禍で、多くの集いの場が中止になる中、各所で様々な工夫をして、つながり続けています。

全てを紹介したいのですが、中でもコロナ禍でもつながり続ける仕組みをつくった3つの団体をご紹介します。



安佐北区 一緒に！誰も 置き去りにしない地域づくり！！

はがきでつながる 思いがにつながる

井原地区社会福祉協議会



●季節を感じさせる絵や心のこもった気に掛け合いで溢れてます！



●お便りの仕分け作業中！

白木町の井原地区社協では、一人暮らし高齢者の方を対象として、毎月往復はがきを用いた見守り（えがお便）を行っています。

体調や心配事などの近況を伝えてもらう「えがお便」は、直接会いに行けなくても思いが届けられる、見守りの仕組みとして、コロナ禍の今だからこそ重要な地域内の大切なコミュニケーションとなっています。

井原地区社協の方は、「えがお便には、詐欺などの注意の呼びかけ等、小学校の夏休み等には、子どもたちが書いた絵手紙をお届けしています。みなさんからとても好評です」「高南郵便局も取り組みにご理解いただき、お便りを届けてくださっています。また返信はがきは、毎月、地区社協役員、民生委員、福祉委員、白木地域包括支援センターと一緒に、取りまとめや書かれている心配事などの情報を共有して、見守り活動の連携を進めています。」と話されました。

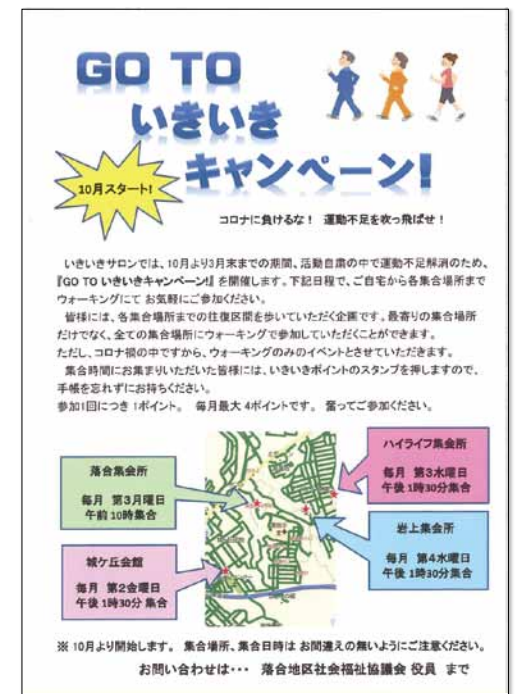
GO TO！ いきいきキャンペーン！！

落合地区社会福祉協議会



●プチ近況報告会開始！！

落合地区の4カ所で開催されていたサロンがコロナにより自粛することになり、運動不足になることや通いの場でのコミュニケーションがなくなることへの危惧から、サロン開催日だった日に、それぞれの開催場所を歩いて回ろう！



というキャンペーンを落合地区社協主催で実施されました。

コロナ前とは違う形でも、住民が同じ時間・同じ場所で顔を合わせて声を掛け合う大切な機会になっています。

安佐北区では、誰も置き去りにしない地域づくりを、地域住民の方々や行政、地域包括支援センターを始めとした関係機関と協力して進めています。

コロナ禍で、地域のつながりが希薄化し、これまでとは違う形のつながり方を求められる状況であるからこそ、“共に”考え、“共に”進んでいく！そんな地域づくりをより多くの方々と共有していければと思います。



安芸区

地域で紡ぐ みんなの“想い”

みんなが主役の通いの場

下大山ふれあいクラブ



●下大山ふれあいガーデン

下大山ふれあいクラブでは、コロナ禍のため、屋外でウォーキングやラジオ体操を実施しています。集合場所の下大山集会所前には、花を植えたプランターが並べられ「下大山ふれあいガーデン」と名付けられています。



●花のお世話の様子

花のお世話は、体調を崩されてサロンへの参加が減っていた花好きな方々が交代で、水やり等の手入れをしています。

地域の活動は色々な形の参加の仕方があるということを実感できます！

密を避けて庭先バザー

中河原町内会域



●ウォーキングの様子

中河原町内会域では、コロナ禍でウォーキングを行う中で、断捨離をした方から「自分では使わないけれど、まだ使えるもの」が自然とリーダー宅に集まるようになりました。



●バザーの様子

リーダーが、庭先に集まった物を並べておくと、参加者の中で必要な人が持ち帰り、提供したい人が置いて帰るというバザーの動きが生まれました。

現在は、手作り小物が並べられる等、特技を活かす場にもなっています。

コロナに負けない！～みんなでつながり続ける方法～

安芸区域

阿戸・矢野地域包括支援センター

コロナ禍で地域の民生委員や支えあいネットワーク協力員もなかなか見守り活動ができていない状況があったため、支えあい協力員等を対象に「支えあい通信」と題したチラシを作成し、コロナ禍での見守り方法等をまとめて配布されました。

協力員からは「このような考え（見守りの大切さ、方法）を地域に広めることは大切だ」との意見をいただいたとのことでした。

いここサロン

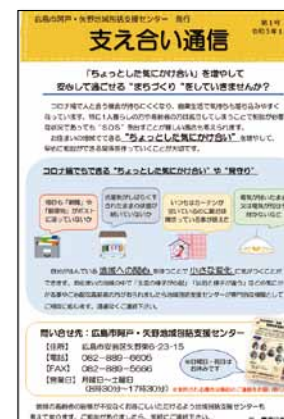
介護施設の集会室を借りてサロンを開催していましたが、コロナ禍で利用困難となりました。リーダーが施設長に相談し、玄関前の屋根付きスペースとテレビ等の機材を借り、サロンを再開。屋外でもできる内容を工夫しながら継続されています。

リーダーはサロンを数回続けて休まれた方には電話をかけ様子を確認されています。

中野地区民生委員児童委員協議会

中野地区民生委員児童委員協議会（民児協）と地域の居宅介護支援事業所とで初めて Zoom を使った「オンラインでつながる交流型勉強会」が開催されました。

講義では、感染対策について丁寧な説明があり、その後の質疑応答では、普段あまり交流のない人達同士で交流しました。中野地区民児協については、初めての Zoom 会議ということで、離れていてもオンラインでお互いの顔が見えて繋がっているという体験をしていただき、好評でした。



コロナ禍では、誰もが様々な想いを抱えて過ごしています。
ここでは、コロナ禍において地域でのみんなの“想い”や
“つながり”を大切に、工夫しながら行われている取組の一部
をご紹介します。



あきりん
(安芸区協マスコミキャラクター)

佐伯区

コロナ禍だから こそのアイデアがあふれています！

自粛期間中も楽しみながら取り組もう！

オイ・ジョйнаぎさ



●『元気つむつ☆ポイントラリー(富士山)』と『けん玉』と『万歩計』

オイ・ジョйнаぎさでは、万歩計とけん玉を購入し、自粛期間中も一人一人が健康づくりを続けられるように取り組まれています。

1つ目は、ウォーキング。万歩計と五日市南地域包括支援センター作成の『元気つむつ☆ポイントラリー』を活用。ウォーキングや人との会話など、自宅のできる健康づくりでポイントを貯め、身近な“極楽寺山”から“富士山”まで、5つの山の登頂を目指します。

2つ目は、けん玉。けん玉の技のプリントを配布し、自宅で楽しんで取り組めるようにしています。

感染予防策を学んで活動再開！

五月が丘一丁目百歳体操の会



●活動再開にあたり、参加時の注意点を確認中

五月が丘一丁目百歳体操の会では、令和2年5月の緊急事態宣言解除後、感染予防策を検討し、活動を再開されました。

まずはサロン世話人を対象に、区地域支えあい課の保健師を招き、感染予防について勉強。サロンでの感染予防や役割分担について話し合い、リハーサルを実施。そして、参加者へ感染予防策を周知をし、活動再開。

その後も、コロナ禍でも健康づくりが続けられるよう、けん玉やラジオ体操の活動を始めたり、工夫しながら安心して活動を続けられるよう、取り組まれています。

まずは役員からオンラインで！

八幡学区社会福祉協議会



●会場出席とオンライン出席を併用した会議の様子 (Zoom アプリを使用)

八幡学区社協では、コロナ禍で既存の活動が難しくなる中、月1回の役員会議を、タブレット端末を使ってオンラインで実施されています。

「コロナ禍でも継続的に会議ができるようにしたい」「小・中学校でもタブレット学習が始まるので、世代間で壁ができないようにしたい」という思いがあったところへ、広島市の補助金(広島市の新型コロナウイルス感染症の影響に対する地域福祉活動緊急支援事業)の情報が有り、申請し、タブレット端末を購入。まずは地区社協役員がタブレットに慣れ、活用できるよう、取り組まれています。

オンライン会議のメリットは、会場の密集を避けることができること、会議に出席しやすくなったこと！

今後は、地域の各種団体や、ふれあい・いきいきサロンでの活用を検討されています。

コロナ禍で、今までどおりにはできなくても、今できることを考え、話し合い、工夫して取り組まれている活動がたくさんあります。
たくさんの活動の工夫をヒントに、今できる活動と一緒に探していきましょう！



佐伯区ボランティアセンター「希望の木(仮称)」
(ボランティアさんから、「コロナ終息後にしたいこと」を書いていただいています)

広島市民生委員児童委員協議会

情報提供者：広島市民生委員児童委員協議会 原本理事

できることをできる範囲で！ つながりを保つ！

民生委員・児童委員の活動は、コロナ禍で、かなり制限されており、これまで行ってきた見守り活動等が十分にできない状況があります。

そうした中、私（原本理事）の地域（古市地区）では、毎月1回、消費者情報誌等に簡単な手紙を添えて、気になる世帯等に配布しています。

詐欺等の注意喚起に努めるとともに、コロナ禍でもつながりを保てるように、できる範囲の活動を絶やさず、気になる世帯等への見守り等を継続しています。



●消費者情報誌と手紙を添えてポストイン！

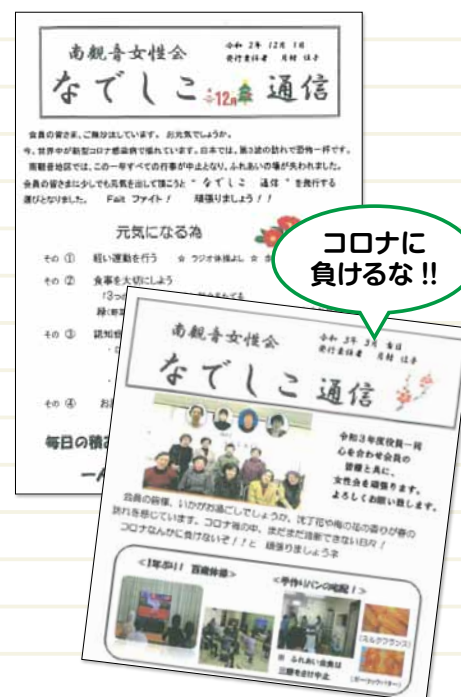
広島市地域女性団体連絡協議会

情報提供者：広島市地域女性団体連絡協議会 月村会長

コロナに負けるな！ 励ましあって、つながる地域！！

市女連では、コロナ禍の中、全体として集まっただけの活動が難しいため、定期的に発行している広報誌「きょうちくとう」を活用して、それぞれの地域の活動や悩みを共有しました。

また、私（月村会長）の地域（南観音学区）でも、ほとんどの行事が中止となることで、ふれあいの場が失われました。高齢の会員が多い地区でもあるため、これではいけないと思い、「なでしこ通信」を発行することとし、会員の皆さんに「コロナに負けるな！」「一緒に頑張ろうね！」と応援の気持ちを込めて、簡単にできる体操や元気になるためのポイントなどを掲載し、配布しました！！励ましあい、つながりを保つことができるように応援をさせて頂いております。



●南観音女性会なでしこ通信

広島市老人クラブ連合会

情報提供者：広島市老人クラブ連合会 高橋会長

44年続く雑巾寄贈運動！！ ～コロナ禍で、改めて継続とつながりの大切さを再確認～

私たちの長束長寿会では、雑巾寄贈運動を良き伝統行事として、先輩方から引き継ぎ、44回目を数えています。毎年約1,700枚以上もの多数を、幼稚園・保育園・小中学校・福祉関係施設・集会所・お寺等に寄贈しています。

最近では、雑巾を使用する家庭も減ってきているためか、小中学校の教育機関を始め、不足がちのようで、需要は思うよりも多くあります。特にコロナ禍では、こまめな消毒や掃除が必要となるため、大変喜んでいただいております。

コロナ禍の中、長く続けてきたこの活動が、こうして地域の方々とのつながりのための大切な役割を果たしていることを再確認することができました。

是非、いろんな地域で取り組んでみていただきたいものだと思います。



●集計配布準備の役員



●会員皆の思いを込めて寄贈された雑巾の山

情報共有で幅広い団体の地域活動を応援！！ ～広島市地域福祉活動緊急支援事業の活用について～

広島市老人クラブ連合会では、令和2年度に広島市が行ったコロナ緊急支援事業について、幅広く周知を行いました。

この事業は、コロナ禍でのつながりを保つための活動に幅広く活用できるもので、主として「友愛活動」に多く関係する内容が中心でした。

そこで、広島市担当部局に電話をし、各地域にある集会所へコロナウイルス対策として、自動検温消毒器と家庭用大型空気清浄機等の感染対策機器の導入を提案した所、実現できることとなり

ました。その後、担当部局から事業の期間延長や拡充等の情報をもらい、社会福祉協議会や広島市老人クラブ会員等と情報共有し、コロナ禍での幅広い団体の地域活動を応援するために、事業活用のための情報の共有を図りました。

「教えてもらってよかった」等、喜びの声を多く聞くことができ、地域のためになる情報は、積極的に情報共有することが大事であると改めて感じた事例となりました。

情報共有って
やっぱり大事！

広島市シルバー人材センター

「任せてね！！あなたと地域のお手伝い！！」

広島市シルバー人材センターの業務は、公園清掃や駐輪場整理など日常生活に密接に関わり生活を支えるものが多く、コロナ禍においても市民生活を支える就業を継続しています。コロナ禍で実践している新たな取組は、以下のとおりです。

家族が帰省できない 高齢者のために！

広島県内シルバー人材センター全体で、コロナ禍において、広島に帰省できない方々に「空き家管理サービス」「墓所の清掃サービス」のPRを行っています。

**広島の家や墓が
気になりませんか**

ふるさと広島県が遠い、仕事に忙しく休めない、新型コロナウイルスが心配などで、帰省できない方々へ
是非、シルバー人材センターにご相談ください。

➡ **空き家管理サービス**

- 建物周辺の清掃、除草、剪定
- その他要望に応じた作業

空き家管理サービスについては、裏面の※①のシルバー人材センターのみが行っています。

➡ **墓所の清掃サービス**

- お正月、お盆、お彼岸などの墓掃除の清掃
- 除草、お花立て、お水立て、お墓番台の清掃
- その他要望に応じた作業

地域にお住まいの60歳以上のシルバー人材センター会員がお手伝いさせていただきます。まずは、裏面の各所定のシルバー人材センターへご連絡ください。お墓の場所から、ご要望の内容、料金等について打ち合わせします。もちろん作業前と作業後の消毒も実施することもあります。

ソーイングサービスで マスク作成！！

「手作りマスク」の作製・販売を行うことで、購入者の感染防止に役立てていただいています。

手作りマスク販売しています。

祇園ソーイングサービス
安佐南区祇園 2-48-7 安佐南区祇園出張所 2階

祇園ソーイングサービスでは洋服のオーダー、お直しとともに、手作りのマスクが好評です。現地に販売品もご用意していますが、お好きな布地でオーダーもできます。

シルバーリサイクルショップ
西区農工センター7-7-2 西都井183号 内

シルバーリサイクルショップではリサイクル衣類が100円〜というお手頃な価格で販売しています。ただ今夏物も揃っており、シルバー会員の手作り小物（マスクやマスクケースも多数取り扱っています）、再生自転車も販売しております。ぜひご利用ください。

シルバー人材センターとは

60歳以上の高齢者が会員となり、就業を通じて生きがいを得ると共に、地域社会の活性化に貢献する組織です。

家庭や企業、公共団体などから受注した仕事を、センターが会員の知識・経験を活かしお引き受けします。



協同労働ひろしま

協同労働団体「アグリアシストとも」 コロナ禍の取組紹介

●コロナ禍の変化

「アグリアシストとも」は、主に農業関係の困りごと支援事業を伴・大塚地域で行っています。コロナ禍、アグリアシストともは「例年農作業を手伝う家族や親戚がコロナで帰ってこれない…どうしよう」という声に応えています。依頼件数はコロナ前の2019年の約60件から、2020年は90件へと増加し、2021年は更なる増加を見込んでいます。困りごと支援を通じて地域の方々と交流する中で、その方の生活の様子やほかにも困っていることなど、気づきがたくさんありました。



●今後、「できたらいいな」と思っていること

アグリアシストともは活動は「農業継続支援」として、伴・大塚地域で「畑を続けたいんじゃが、草刈りが大変で…」といった困りごとに応えています。そこで気づいた依頼者の庭や畑に放置された不要資材や金属製品…。信頼できる業者を探して何とかしたいと考えています。また、地域包括支援センターや医療機関と連携して、入院中などに気になる「家の外の困りごと」支援を始めたいと考えています。



※写真は個人宅ではありません。

協同労働とは

みんなが自らできる範囲で出資し、みんなが対等な立場でアイデアを出し合っ、人と地域に役立つ仕事に取り組む仕組みです。

広島市では、就労や社会参加を希望する意欲と能力のある60歳以上の方が中心となって、地域課題の解決のために「協同労働」という働き方で取り組むことを推進するためのモデル事業を実施しています。



広島県生活協同組合連合会

苦手だけど、仲間と一緒にチャレンジ！
～オンライン環境を活用した学習・つながり・健康づくり～



●医療機関とオンラインで接続して新型コロナウイルス感染症についての学習会を開催しました。



●実会場と自宅をつないだハイブリッドでストレッチサークルを開催しています。

新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、サロンや班などで取り組んできた、体操教室等の健康づくり活動や、学習会等の集い・交流する活動を制限せざるを得ませんでした。しかし、このことは意欲低下やフレイルを進行させ「転倒してけがをした」「閉じこもりがちになった」という声が多く寄せられることになりました。

この状況に対して、会員生協（広島医療生協・中央保健生協）では組合員役員等に対してタブ

レット端末等を貸与し、オンラインで学習会や体操教室を開催し、繋がりを絶やさない取組を行っています。

また、タブレット端末等の導入にあたっては、高齢者の方からは「操作が難しい」といった意見もありましたが、職員等が講師となり個別にサポートしたり学習会を開催し、最近では「今度の会議はオンラインにしようや」と逆に提案があるようになりました。

広島市農業協同組合

農産物品評会の野菜を地域団体へ寄贈
～地域とつながり、思いがつながる!!～

●取組のきっかけ

令和2年度及び令和3年度はコロナ禍のため、例年開催している農業祭の規模を縮小して開催することとなりました。例年は、農産物品評会の出品農産物を来場者に販売等していますが、新型コロナウイルス感染防止のため中止となりました。

せっかくなので、「出品された農家さん自慢の農産物を地域団体へ寄贈をさせていただきたい」と広島市社協に相談し、区社協の協力を得て、地域で「食」をテーマに活動を行っている団体を紹介してもらいました。

こども食堂や地域食堂等の様々な活動を行う地域団体に、農産物等を寄贈し、各団体に有効に活用していただき、大変喜んでいただきました!!

●今後、「できたらいいな」と思っていること

こども食堂などに対する農産物寄贈等の地域貢献を、食品ロス削減につながる視点も交えながら、仕組み作りを他の組織等とともに検討できればと考えています。



●品評会での寄贈式の様子（令和3年度安佐南区農産物品評会）



●品評会での寄贈式の様子（令和3年度東区温品農林産物品評会）



●いろいろな方法や場所でおいしい料理に!!

広島市小規模多機能事業所連絡会

情報提供者：広島市小規模多機能事業所連絡会 藤原代表

コロナワクチン接種を地域のなじみの場所で！地域と協働！！ ～小規模多機能事業所「縁が和」(安佐北区亀山)の取組～

●取組のきっかけ

介護が必要な高齢者を中心に、接種の予約や会場までの移動などに不安を抱える声があることから、地域住民の方々と小規模多機能事業所「縁が和」の職員等が、協力医療機関の長久堂野村病院に相談し、実現された取組です。

●取組内容

接種会場となる交流施設「まちづくり四日市役場」(亀山)を運営する一般社団法人や民生委員の方々と協力し、長久堂野村病院(可部南)の医師と看護師に出張接種していただきました。

予約確認等は、地域住民さんたちに担っていただき、認知症などがある高齢者の世帯などにも接種を呼び掛けていただきました。

●取組を振り返って

縁が和を運営するNPO法人の理事長で、今回の企画に携わった国松は、「ワクチンは感染防止の鍵なので接種のペースが上がればいいと考えました。地域の方々に協力をいただくことや地域のなじみの場所を会場とすることで、地域のつながりを感じながら、落ち着いてワクチン接種を受けていただくことができました。」と話します。



小規模多機能事業所とは

デイサービス、ショートステイ、ホームヘルパーを柔軟に組み合わせるサービスで、どれもなじみの職員が対応する急なサービス変更もしやすい、などのメリットがあり、在宅介護の切り札の一つを言われています。

広島市福祉施設連絡協議会

情報提供者：牛田・早稲田地域包括支援センター 黒瀬センター長

地域と専門職が連携し、施設入所者と その家族をつなぐ！！

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、介護施設入所者の皆さんも家族との面談が非常に困難な状況になっています。

このような状況の中で、早稲田学区社協・牛田学区社協と牛田・早稲田地域包括支援センター、介護施設等が協力し、「家族と施設入所者のリモート面談支援」を昨年から開始しました。



●取組のきっかけ

他県から来られたご家族から、施設入所している高齢の男性と何とか面会がしたいと相談がありました。

そこで何とか施設にリモート面会をお願いし、面会が叶うとその高齢男性が泣いて喜ばれました。

改めて、顔が見れることの必要性を感じ、この取組が地域のつながりの中でできないかと、学区社協の皆さんにご相談したところ、思いに共感していただき、ご協力をいただいています。

●取組内容

具体的には、学区社協の拠点に家族の方に来所いただき、施設の入所者とのリモート面談の支援を行うものです。

リモート面談拠点での支援は、早稲田学区社協と牛田学区社協が行い、面談希望者の把握、施設・ケアマネジャーとの協力・調整等については、牛田・早稲田地域包括支援センターが中心となって、実施しています。

●取組が生むつながり

この取組を利用していただいた方で、施設入所されているお母様は高齢で耳が遠いため、こちらの声を聞き取りづらいうででしたが、顔が見れたので良かったと満足そうにされていました。面会した娘様も「半年ぶりに母親の顔を見た」との喜びの声をいただきました。

自宅から近い場所等での面談が可能になり、地域との触れ合いの中で、大切なご家族とのつながりを保つことができる取組です。

マツダ株式会社

情報提供者：マツダ株式会社コーポレート業務本部 総務部 地域リレーショングループ 小田切さん

企業と地域がつながるヒント！ ～Win-Win の関係で地域貢献～



●社内売店に作業所作成の商品がズラリ！

●取組のきっかけ

会社として、コロナ禍の中、何か地域のお役に立てるような活動を企画できればとの思いから、市社協ボランティア情報センターへご相談しました。

ご相談をする中で、今年度は新型コロナウイルスの影響で地域のイベント等が軒並み中止となり、作業所に通う障害者の方々が作ったお菓子や雑貨等の販売機会が失われている状況が続いていることについて説明を受けました。

そこで、社内（府中町）に売店を設置していることから、作業所製品の販売コーナーを新設してはどうかと提案させていただきました。

●取組の状況

販売コーナーが設置されると製品の売上げも好調で、作業所に通う障害者の方々が「うれしい。」「商品を作る制限をしなくて良いのでありがたい。」「と喜んでいただいています。

●その他

また、コロナ禍でもできるボランティア活動として、ウエス材料を収集し、従業員から募った布類約 226kg を作業所へ寄贈しました。

セブン・イレブン・ジャパン

情報提供者：セブンイレブン・ジャパン福富 オペレーションフィールドカウンセラー セブンイレブン広島落合1丁目店 松下オーナー

コロナ禍でも“もっと近くて便利へ” ～セブンあんしんお届け便（移動販売）の取組～



セブンイレブン広島落合1丁目店及び広島落合2丁目店では、今年の1月25日から「セブンあんしんお届け便」をスタートさせました。

これは、軽トラックの荷台に弁当及び冷蔵、冷凍、常温商品を載せて地域のお客様のもとへ移動販売車を走らせるサービスです。現在、全国で100台強稼働していますが、広島市内では唯一の取組です。

導入のきっかけは、もともと車で来店していたお客様が免許を返納されたり、店舗まで歩いてこれなくなった等の話を聞き、「地域のためになにかできることはないか」と考え、移動販売車を導入しました。

●コロナ禍での地域とのつながり

コロナ禍のため、店舗での買い物について、「コロナだからやっぱり怖いよ」というお客様の声もあります。

移動販売車であれば、家から近い場所で、常時屋外のため密を避けられ感染防止に注意できるので、買い物しやすいとお声を頂いています。

また、移動販売で訪れる場所それぞれで、地域の方のコミュニケーションの場にもなっています。

例えば、いつも買い物に来る人がこなかったら、「私が呼びに行っておあげよう！」と声をかけに行ってくれています。移動販売車が、地域の方々の見守りのきっかけにもつながっています。

他にも、小さなお子さんを抱えたお母さんが乳母車を押して買い物に来られると、お母さんが買い物中は他の買い物に来られた地域の方がお子さんをあやしていたりします。

こういった、普段の店舗での買い物ではなかなか生まれることのない地域住民がつながる場（まるで昔の井戸端会議の場のように）になっているのを感じられて、とてもうれしいです。

コロナ禍でも、地域の皆様に「もっと近くて便利！」をキャッチフレーズに、より安心と安全をお届けしていきます。



●あんしんお届けドライバーの
大西さん（左）と松下オーナー（右）



●様々な商品を地域へお届け！！

ひろしま NPO センター

コロナ禍の補助金等を幅広く情報共有 !!

コロナ禍においては、NPO（市民活動団体）も大きな影響を受けました。**ひろしま NPO センター**では全国の支援センターと連携して NPO の状況調査や情報収集・発信、政策提言などを行ったほか、助成金の配分や寄付金集めなどを行いました。

情報発信や相談対応によって、コロナ禍における会議や行事の運営方法、省庁・自治体の支援制度の創設や改善、NPO による支援制度の活用や資金獲得をご支援することができました。

また、調査や政策提言を実施し、その結果として NPO を対象とした支援施策が整備されました。**メディアにも多く掲載され、コロナ禍における NPO の状況について幅広く発信することができました。**

一方で、支援制度の対象とならない団体、活動自粛による社会サービスの停止、長引くコロ

ナ禍の影響等から、多面的な支援制度や継続的な支援がこれからも必要と考え、活動を継続しています。



●「コロナにゃ負けんよ!!」
様々なつながりを応援する TEGO プロジェクト

NPO のための新型コロナウイルス対策に係る各種業務実施結果 (2020 年度)

情報収集: 89 件	支援施策、自治体からのお知らせ、助成金等
アンケート調査: 2 件	広島県、全国
情報発信: 93 件	ホームページ、Facebook、メール案内等
相談対応: 112 件	専用電話、FAX、メール、面談等
ネットワーク: 71 団体	CIS (「新型コロナウイルス」NPO 支援組織社会連帯)
政策提言: 3 件	広島県、広島市、NPO 議員連盟
助成金配分	中国 5 県休眠預金等活用コンソーシアム休眠預金等活用事業 2020 年度コロナ枠、17 団体 (うち広島県 3 団体) 円
資金調達: 280,900 円	47 都道府県「新型コロナウイルス対策」地元基金
メディア掲載: 5 件	中国新聞、四国新聞

ひろしま NPO センターでは、地域や社会の課題解決に取り組む NPO 等の皆様の活動をサポートします。助成金や制度、セミナーやフォーラム情報などをご紹介します。



広島市社協ボランティア情報センター

みなさんの想いをつなげて



●多くの想いが集まっています!

●手作りマスクでつながる想いと想い

広島市社会福祉協議会ボランティア情報センターでは、自宅のできるボランティアのひとつとして、手作りマスクを募集しました。当時のマスク不足に少しでも対応しつつ、一人一人の想いがつながり、少しでもほっこりした優しい気持ちで日々を過ごしていただけたらと思い、いろいろな団体の方々にご協力をいただきました。

作成いただいたマスクは、市内の高齢者、障害者等、必要な団体や個人等へ配布しており、マスク不足の不安解消とともに、たくさんの支え合いの想いがつながる取組となりました。

●コロナ禍でも今からできる収集ボランティア

コロナ禍でも気軽にできるボランティア活動として、「収集ボランティア」を紹介します。使用済み切手、書き損じハガキなどご家庭や職場にあるものを集めて収集体に送り、収集体が換金して海外の保健医療活動の援助や国内外の

さまざまな福祉活動のために役立てられています。

収集を始める前に活動が無駄にならないよう収集体の活動目的・換金方法・活動内容などの情報の把握が大切です。事前に収集体に問

合せ確認できるように収集活動の参考になればと「収集ボランティアハンドブック」を作成しました。

「私にもできるかも」と思ったら、そのタイミングがボランティア活動の始めどきです。お気軽にご活用ください。



●収集ボランティアハンドブック

市社協 HP からダウンロードできます!!



（生活支援コーディネーターの紹介）

あなたの地域の「できたらいいな!!」を教えてください！
実現に向けて一緒に考えてみませんか？

市・区社協の「生活支援コーディネーター」や地域包括支援センターの「支え合いコーディネーター」は、それぞれの地域の「あったらいいな」や「できたらいいな」を一緒に考えさせていただき、地域の「支え合い」「助け合い」等の支援を行っています。

地域の実情に合った仕組みづくり、コロナ禍での新たな生活様式を取り入れた地域活動の検討等、他の地域の事例等も紹介しながら、地域の支え合い・助け合い活動を一緒に考えていきます。

活動の合言葉
「つくる・はぐくむ・つなげる」



（ひろしまええとこ通信の紹介）

各地で実践されている『ええとこ』を
お寄せください！

定期的に発行している「ひろしまええとこ通信」では、広島市域の好事例（ええとこ）を広くご紹介しています。

「うちの地域でこんな活動しとるよ!」「気になる人と工夫してつながるようにしとるよ!」そういった地域活動に関する耳寄りな情報を教えていただき、定期的に発信していくことで、「ひろしまのええとこ」をみんなで共有できる情報紙を目指します。耳寄り情報は、市・区社協の生活支援コーディネーターに是非、教えてください!



市域協議体とは？

多様な主体が集まって、「こんな仕組みがあったらもっと地域活動が充実するのでは!」「この地域にはこんな素晴らしい取組があるよ!」「地元企業と一緒に地域を盛り上げよう!」など、市域で解決すべき課題について考える場が「市域協議体」です。広島市がもっと暮らしやすいまちになるよう、話し合いながら連携を深めています。

今回はコロナ禍の活動を一緒に情報共有し、協働して本冊子の作成を進めました!

●主な構成団体(順不同)

広島市民生委員児童委員協議会、広島市地域女性団体連絡協議会、広島市老人クラブ連合会、ひろしまNPOセンター、協同労働ひろしま、広島県生活協同組合連合会、広島市農業協同組合、広島市福祉施設連絡協議会、広島市域居宅介護支援事業者協議会、広島市小規模多機能事業所連絡会、(株)セブン・イレブン・ジャパン、日本郵便局株式会社、広島市シルバー人材センター、広島県シルバーサービス振興会



本冊子の事例等を共有しました!!

令和3年度介護予防・日常生活支援総合事業市民啓発研修会 「ひろしまええとこつながり報告会」簡易報告

令和3年12月2日(木)開催



- 開催目的／コロナ禍の活動実践の共有、様々な団体・組織間の横のつながり強化
- 参加者／本会場・サテライト会場：52名・オンライン：約109名
地区社協・町内会自治会、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、市・区社協、行政等

1【講演】「コロナ禍で考える 気にかけて合う地域づくり」

講師：ご近所福祉クリエイター 酒井 保氏

全国を股にかけ、地域づくりの講演をされている酒井保氏に、コロナ禍でのつながりの重要性について、ご講演いただきました。

「社会性」「フレイル予防」「サルコペニア」「暮らしづくり」等、コロナ禍でつながり合うための多くの大切なキーワードを楽しく教えていただきました!



2 各区生活支援コーディネーターからの事例報告

東区・西区・中区の生活支援コーディネーターから、コロナ禍でつながるための地域の実践として、①ウォーキング関連(東区)、②オンライン関連(西区)、③生活支援関連(中区)について、報告がありました!

詳しくは、「ひろしまええとこ通信第5号」をご覧ください。



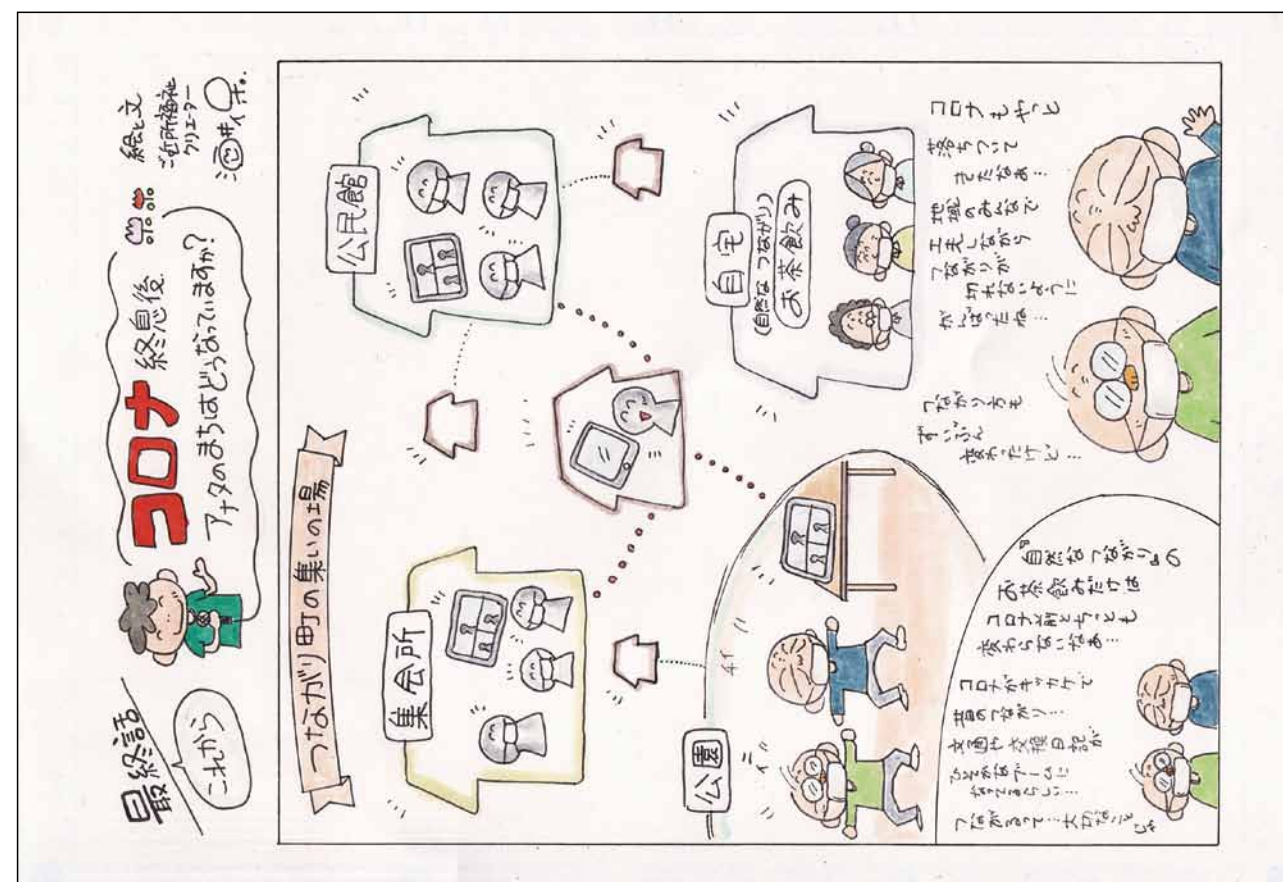
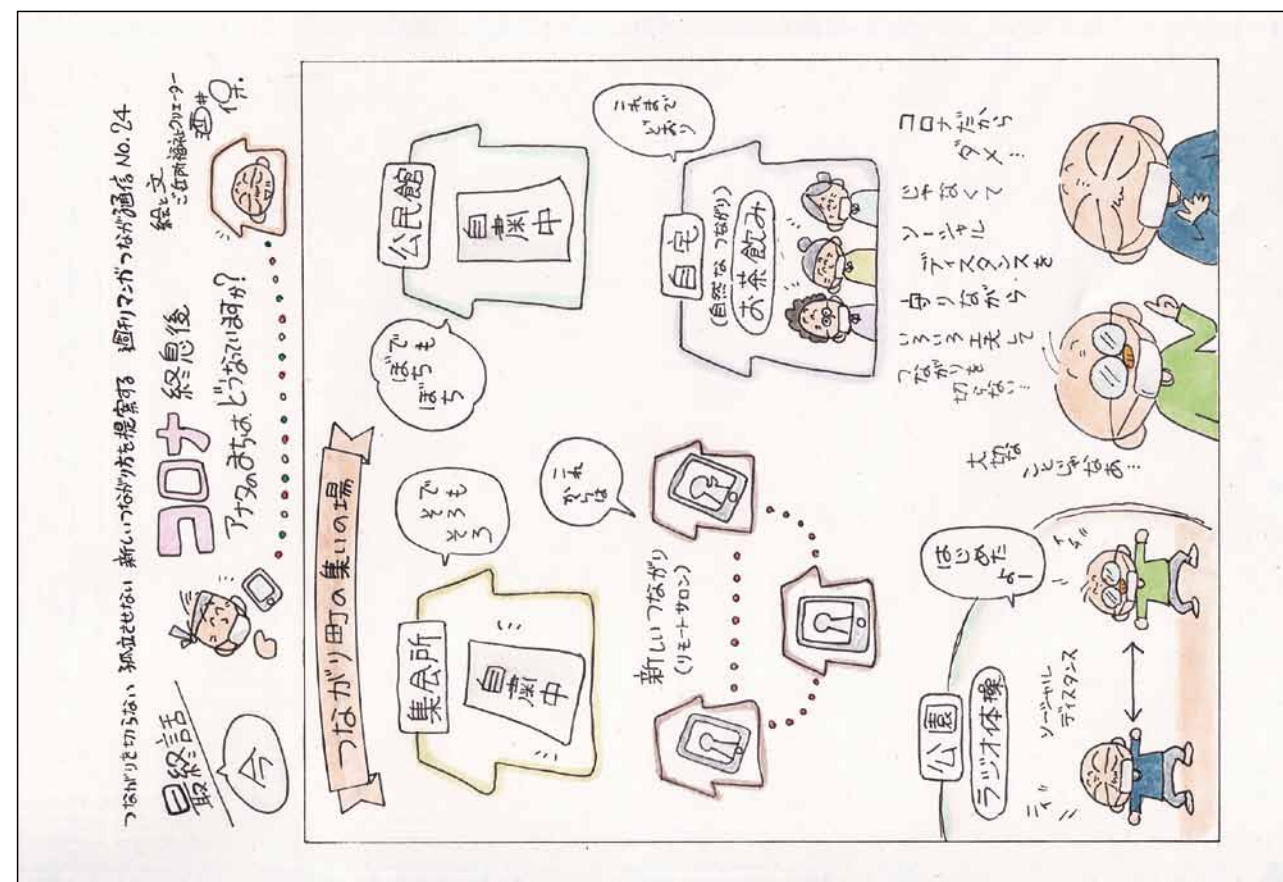
アンケートより



コロナ禍の中でも工夫次第でいろんな活動ができることが参考になった!いろいろな地域住人の社会参加の場を作りたい。また、全地域住民を対象とした困りごと相談所は必要であると痛感した。地域関係団体と早速協議したいと思います。



地域支え合い活動がフレイル予防につながり、社会性、社会参加の支援として役割を持たせ、お客さんを作らない取組みが重要であると再認識できた。今までもそのように動いて来たので、自信が持てました!!



ひろしまええとこ つながり活動集

発行者 社会福祉法人広島市社会福祉協議会
〒732-0822 広島市南区松原町5番1号
広島市総合福祉センター (BIGFRONT ひろしま)
TEL 082-264-6403 FAX 082-264-6413

発行月 令和4年3月